



# 友達になろう

## BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー ●第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫 ●副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三 ●副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行 ●副SAA——清水 良一 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477  
FAX 32-7095

### 出席者会員数

会員 79名中 61名

### 先々週出席率

87.50% (前年同期 90.91%)

### ヴィジター

三条南より 相田明雄さん、豊島 豊さん、井口禮里さん

三条北より 山上茂夫さん、中條耕二さん

三木みどりより 藤本晏夫さん

### ゲスト

前営林署職員 関根依智朗殿

### 先週のメイクアップ

5/25 加茂へ 吉井俊介さん

### 会長挨拶

高橋(一)会長

皆さんこんにちは。今日は卓話をお願いいたしております関根さんはじめ大勢のお客様をお迎えしております。有り難うございます。

今日例会に出てまいります前に、少し家に寄りましてテレビを見ておりましたら、青島東京都知事が都市博の中止を決断したというニュースが流れておりました。この問題は

きな一石を投じたのではないのでしょうか。特に選挙の時の公約という問題。これが非常に大きな議論になるのではないかと思います。

公約と申しますと思い出しますが、「消費税」の問題。選挙の時は何も言わないで、選ばれてしまったら、通してしまったり。あるいは近いところでは社会党が政権党になってしまったら、自衛隊を認めたり、過去このようなことがいろいろあったわけですが、今回の青島都知事の「公約を守って都市博を中止いたします」というひと言が、いろいろな形で論議を起こすことだと思います。

これが前の都知事と同じ政党の方が当選しておられたなら、こういった問題もなく、スムーズに進んだことでしょうし、知事が代わっただけでは問題が起こらなかったことだろうと思います。

議会との関係も、私はおかしいと思うのですが、議員の人たちは、有権者の負託を受けて議会に出ていると言っているながら、議会でどのようなことが審議され、どういうことが決まったのかということや、全くと言っていいほど有権者に報告していない。この都市博の問題でも都民無視の中での論議のようです。私たちが代表を選んでいるということは、四年間白紙委任状を与えているというような状態になっているように思えてなりません。

このような問題も、今回の青島発言から論議していただきたいと思っています。

#### 幹事報告 五十嵐(晋)幹事

◎例会変更のお知らせ!

三条南RC——6月5日(月) 槻の森総合運動公園見学会

#### 6月の祝い

◎会員誕生祝 6日 石橋育於さん 6日 平原信行さん 9日 小柳直人さん  
10日 杉野奎司さん 16日 五十嵐寿一さん 18日 高橋一夫さん  
23日 林 光輝さん 24日 捧 賢一

◎結婚記念祝 5日 林 光輝さん 5日 小柳直人さん

#### ニコニコBOX ¥10,000 5月31日分

高橋(一)さん 関根さん本日はようこそおいで下さいました。  
石橋さん 先週の23・24・25日の家庭会合には委員長さん始め、多数の会員の方から御出席いただき、ありがとうございました。  
松谷さん 関根さんの卓話楽しみにしています。  
清水さん 本日の講師・関根依智朗さんを歓迎して。  
佐藤(武)さん 関根依智朗さんの卓話楽しみにしております。

菊池さん 小説「新訳<sup>トッソ</sup>杜子春」の取材のため、洛陽・西安に行ってきました。会報委員会のメンバーには御迷惑をおかけいたしました。

加藤さん ゴルフ同好会の第11回コンペを6月22日に開催します。多数の御参加をお願いします。

荻根沢さん 北クラブ山上様転居おめでとございます。近所ですので寄らせて頂きたいと思っております。

関本さん 本日早退させていただきます。

#### 卓話 「森林と環境」 前営林署職員 関根依智朗殿

只今ご紹介いただきました関根です。多方面にわたりまして御活躍の皆さんに敬意を表させていただきたいと思っております。と同時に三条はもとより全県にわたりまして名声の高い貴クラブにお招きをいただき、お話をさせていただく機会を得ましたことを感謝いたしております。

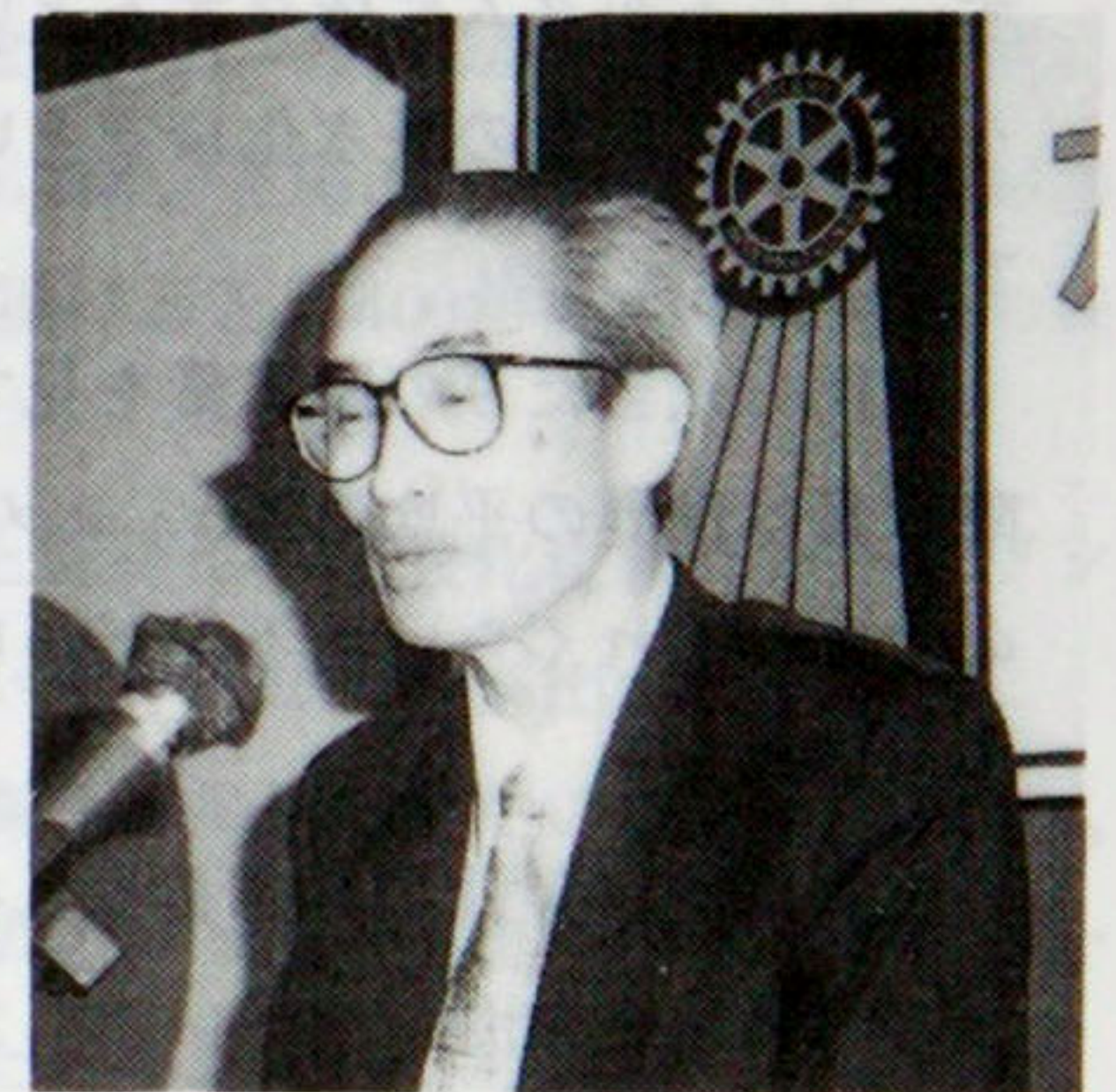
昨日政府は環境白書を発表いたしました。「環境破壊によって現代文明が消滅するのではないか」。こういうことを政府は発表いたしております。これから30分間の私の話がそういうことに触れられるかどうかは分かりませんが、40年間森林林業に携わってきたという立場で、山を見てきましたので、そういう観点から一端を述べさせていただきたいと思っております。そして私の話が皆さんの今後にお役に立っていただければ幸いに思います。

皆さんもご案内のように昨年は高温少雨でありましたし、一昨年は低温長雨ということで、いろいろな被害がございました。

とりわけ昨年の高温少雨の問題で申し上げますと、福岡市では近ごろになってようやく断水をやめたというようなことで、昨年は全国31都道府県、332市区町村、1,042万人の方々が断水・減水という被害を受けたわけです。新潟県内でも21市町村、28万3千人の方々が減水給付という形で御不自由を受けられました。

減水給水ということを見ましても大変なことです。それ以外にも海水の逆流で県庁とか新潟交通さんなどでは被害が出ましたし、ダムが貯水率が減って被害を受けました。五十嵐川上流のダムでもあと数日雨が降らなかつたら、完全に水を流すことが出来ないという状況にまでいきました。また湖沼も県内51ありますが、そのうち9湖沼は完全に渴れてしまって、農業用水を給水することが出来ませんでした。

更には高温少雨による農作物の被害が、14,189ヘクタールで97億円を超える被害額にな



りました。これだけの被害を出すなら、このお金を「山造りに回したらなあ」という思いでいっぱいです。

気温が高かったことはご案内の通りですが、降雨量の方も、例えば昨年七月をとってみますと、平年の35%しかありませんでした。平年ですと約180ミリメートルくらいなんです。昨年は63ミリメートルくらいしか降りませんでした。近年、高温少雨の渇水サイクルがどんどん短くなってきております。そういう意味からも、今後の水対策は大変になるわけですし、急がなければなりません。

そういうことを捕らえまして国は水対策を立てました。それによりますと西暦2,000年には、水の需要量は今日比生活用水で40%増、工業用水で40%増、そして農業用水で7%の増が見込まれております。この水を賄うためには120箇所のダムが新たに必要になります。ところがダムに依存するというのはもう限界に来ているといわれております。そういう点からも海水の淡水化事業ということも考えていかなければならないとして記しています。

国民一人当たりの降水量を見てみますと、日本は世界平均の5分の1なんです。年間の降水量は世界の平均量900ミリメートルに対しまして日本は1,800ミリメートル、二倍あるのです。それくらいあるのだから安心そうなのですが、国民一人当たり直してみますと少ない。

三条市では年間の給水量は1,400万トンです。一日平均38,400リッターです。今度、広域の水供給企業団が発足いたしました。県央の五市町村で、大谷ダムから水を供給することになりましたが、それも2,000万トンくらい今の給水量よりも多く取水をするという計画になっているようです。この計画が可能なのも、下田村はその約80%が森林であるお陰と言ってもいいでしょう。その森林があるという点と、同時に下田村は雷が多いというところで、降水量は全国平均の1,800ミリメートルより多い2,400ミリメートルあるのです。こういうことがこの計画を可能にしているのです。

しかし安心は出来ない。ここで考えていただきたいことは、ダムというのは、建設省の考え方によりますと100年なのです。年々土砂が流入してきますので100年しか持たない。そうしますと、単純に計算いたしますと一年に1%ずつ確保する水が減るわけです。私の試算では14.5年で今の水量を供給することが困難になるのではないかと心配いたしております。今後のダムの保全、水の確保ということに関心を持って見ていていただきたいと思っております。

それから山を守る人達がどういう状態になっているのかという問題です。とりわけ下田村の場合では過疎化現象の問題もございます。ここらも十分に考えていかなければならないと思っております。と同時に、これだけの水資源を下田村から供給してもらっているということをお考えますと、三条市といたしましてもお金も出し、頭も痛めるべきだと思います。皆

さんはいかがお考えでしょうか。

森林の造成で水を確保していくと同時に、雨水の利用対策も大事だと思います。新潟県の資料ですと、1990年(平成2年)には既に水は310万トン不足しているのです。95年には765万トン不足するという試算がされています。そういう意味からの対策が急がれております。三条市の公下水道計画では、雨水はそのまま流してしまうという計画のようですが、どういふものでしょうか。既に東京の隅田区役所とか大相撲の両国国技館等ではトイレ、空調、防災、緊急用の飲み水確保のために雨水の利用ということを始めているのです。埼玉県の越谷市では雨水用のタンクを設置した人には補助金(38,000円)を出すというような政策を執っております。

このように環境白書で警鐘が鳴らされておるわけですが、世界的に見ますと森林面積は総面積の3分の1あるのです。しかし18世紀から今日までにその森林が24%失われ、更に1981年から90年までの10年間に、我が国の国土面積の5.2倍、1億3,000万ヘクタールが消えてなくなりました。このままの速度で森林が消滅し続けると、400年後には地球上の森林は0になるという計算も出ています。

この掛け替えのない緑の宇宙船・地球も森林の消滅と同時に、温暖化現象だとかオゾン層の破壊の問題だとか、酸性雨の問題だとかですね、いろいろな問題が出ています。

酸性雨の問題ですが、ドイツをはじめヨーロッパで森林が渇れ始めている。動物までも死んで逝く。大変な惨状だそうです。この場合の酸度がだいたい4.6前後だそうです。オレンジの酸っぱさくらいだそうです。日本の雨もだいたいそれくらいの酸度だそうです。新潟県の雨もその前後なんです。そういたしますと、この酸性雨の問題はヨーロッパの国の問題だというわけにはいかないと思っております。これも真剣に取り組まなければならない問題だと思っております。

こういった森林をとりまく問題の中で、もう少し具体的な森林の役割について触れてみたいと思っております。皆さんも既にご承知のとおりですが、酸素の供給だとかですね、地球の温暖化の防止だとか、水資源の確保だとか、様々な役割を果たしているわけです。

酸素の供給ということでお話しいたしますと、1ヘクタールの森林があると何人分の酸素が供給できるか御存知でしょうか。実に44人分なんです。森林と人間を含む動物だけの関係ならバランスが取れているのです。二酸化炭素が増えるというのは、そういった生態系以外の鉱工業の発展ということで使う部分が原因になるわけです。

もう少し分かり易い例でお話しいたしますと、2,000ccの自動車が毎時60キロで24時間走りますと、直径20センチで15メートルの樫の木が蓄えている炭酸ガスの量と同じといえますから、自動車の排気ガスの量もばかにはなりません。

政府も産業界も試験にCO<sup>2</sup>の問題は考えているのですが、そう簡単には進まないようです。今のままでは毎年二酸化炭素が増えると西暦2,000年代には気温が3度上がるだ

ろうといわれております。昨年の夏は平年より平均で2度高かったそうですから、このままいけば昨年以上に暑い夏が毎年やってくるということになります。作物もどんどん南のものが北へ移り、変わってまいります。

水資源の確保の問題で、森林1平方キロメートルでどれくらいの保水力があるとお考えでしょうか。森林1平方キロメートルで200リッターのドラム缶1本なんです。だから1ヘクタールの森林というとドラム缶10,000本分の保水力を持っているということです。

また最近見直されていることに森林浴がございまして。森林浴いたしますとストレスの解消、ぼけ防止、それから骨粗鬆症の予防に効果有りと言われております。松林へ行きますと松の匂いがいたしますね。杉林へ行けば杉の匂いがいたします。あの匂いは、実は樹木同志がお互いに協力し合って外から入ってくる病害虫を予防する、そういう殺菌力を持った揮発性の成分なのです。それが人間の体にも大きな効果があると言われております。例えば松脂の匂い、この匂いをかぐと動脈硬化の予防になる。それから栗の木の葉の匂いをかぐと高血圧の予防になる。こういうことが科学的医学的にも実証されてきています。

そういう点からも森林が、国民の保健休養の面からも重要になってまいります。昔の人たちは既にそれを利用していましたね。ちまきとか、笹団子、桜餅、柏餅などはそういう木や葉の持っている殺菌力を利用して保存に役立てたのです。昔の人たちの知恵ですね。

災害防止、水資源確保、保健休養といった森林の持つ公益的機能というのですが、この価値を政府が貨幣に換算いたしましたら、39兆2千億円になったそうです。そういたしますと国民一人当たりいたしますと、毎年31万なにかの恩恵を受けているということになります。

この森林も木材価格の低迷だとか収益率が落ちたということやらです。植林もさることながら、手入れをする人もいなくなるということで、年々荒廃していくというのが現状です。価格の低迷の大きな要因は外材ですが、ニュージーランドからですね、舟で運んできて港にあげて1立方5,000円なんです。ところが日本の木の場合は町場から10キロメートルくらいの所から出してきても10,000円なんです。これでは太刀打ちできるわけがない。

森林を育てるためにかかるお金は、全国平均では270万円だそうです。新潟県のように雪の降る地方では手入れが余計にかかる。森林組合の役員の人に聞いてみますと、新潟県の場合でだいたい400万円くらいかかるといいます。この収益率は50年で僅か0.1%です。これでは企業としては成り立つ道理がありません。これが山の放置という問題の大きな要因であるわけです。

山の仕事は機械化で全部出来るわけではないのです。自然現象の問題もありますし、地形の問題もありますし、工場の中のようにはいきません。どうしても人手に頼らざるを得ないのです。しかし、林業に携わっている人たちが年々激減なのです。昭和35年には44万人いたのですが、現在は10万人そこそこです。それも年齢が50歳以上が70%です。ですか

らもう数年したら山で働く人はいなくなるだろうと思われています。

林業は3K（きつい、汚い、危険）どころではないんです。加えて給料が安い、休暇がない、格好が悪い、職場が暗い。7Kといわれています。若い人は入ってきません。このままで良いのかどうかということになれば、誰もいいとは思わないのですが…。

私の長年お世話になった国有林、これも国民共有の財産ということですからただ単に山村の人々や林業に携わる人だけではなく、国民全体の山として考えていかなければならないと思うのです。しかし現状は独立採算制の上に、木材収入が上がりませんから赤字になるのは当然なわけですし、昨年度の実績では累積で3兆円の赤字になっております。

そこで政府は55年から改善計画という計画を立てまして、簡単に申しますと今はやりのリストラでして、出先機関を少なくし人員を減らす。それでも間に合わなくて、植林後の手入れも疎かになる。

この前の日曜にあるグループを八十里越えにご案内いたしました。余りにも森林が荒れておりますので、「営林署の連中は何をしているんだ」という指摘がありました。「怠けているのではないのだ」ということをお話したのですが、このリストラをいくらやっても借金は増え続けるのです。

かつて九万人いた職員が、今は二万人そこそこなのです。そして政府は二年後には一万七千人にして、将来は一万人を切る人員にしたいという計画です。では後はどうするのかということについては、民間にお願いしようというのです。しかし先ほど申しましたように、400万円かけて50年で収益率0.1%となれば、はたして民営化ということが進むかどうか。大きな疑問です。

民有林も同じことだと思います。ここではやはり国の予算を投入して、森林を育てる政策を施さなければなりません。外材の輸入の問題、山で働く人の生活の問題、難問だらけです。しかしヨーロッパの国々では既にいろいろな援助政策が施されているといいます。奥地に住む人ほど大きな援助をするという政策がとられているところもございまして。

ここで私が一番強調したいのは、林業に従事している人たちの国民的評価が非常に低いということです。数年前に新潟大学の教授でドイツに留学されていた先生が、ドイツでは林業に携わる人は国民的英雄だということを教えてくださいました。ですから成り手が多いいということでした。

日本では全く逆ですね。国民的評価極めて低い。その一例として、森林浴やら登山やらハイキングで山に入った人が、山で仕事をしている人を見ましてね、山で働く人たちは、この暑いのにヘルメットをかぶって、先に鎌を付けた樫の長い棒を振っているんですがね、その人を見ましてね、「あの連中はバカではないか」とこういう声が聞こえたというんですね。

一生懸命働いている人たちにしてみれば、使命感を持って働いている人たちは傷つきま

すよね。これからは国有林のみならず民営林でも、林業に携わる人たちが励まされるような、また次代を担う若い人が入ってくるような状況を造る必要はあるのではないかと思います。そのためには皆様のご理解とご尽力が必要です。

最後に私の方からお願いやら訴えをさせていただきたいのですが、昨年夏十七カ国から子供さんが島根県に集まりまして、「限りない地球を求めて」というテーマのもと、国連地球環境子供サミットというのをやったのです。大人も4年前にやったようですが、その席で竹下元総理大臣が挨拶の中で、「環境問題を語れない政治家は、知性も理性も勇気もない政治家だ」ということをおっしゃいました。それから大石武一元環境庁長官は現職時代に、「国を守るのは自衛隊ではない。それは森林である。だから林業予算はもっと増やさなければならない」ということを言われました。

私のように長年林業に携わってきた者にとっては誠に有り難いお言葉なのですが、現状はなかなかそうはなっておりません。ですから勇気のある、知性と理性のある政治家に出てきていただきたい。そのような意味で、森林の問題に関心を持っていただきたいとお願いすると同時に、市政の中等で、御提言やら御尽力を賜ればと願っております。

これからも私の出来ることは何でもやる覚悟でございます。山もご案内もさせていただきますし、お話をさせていただく機会をいただければお話もいたします。よろしくお願いたします。以上を持ちまして私のつたない話を終わらせていただきます。皆様の御活躍を心からお願いいたします。

(文責・会報委員会)

#### 地区協議会に参加して

##### ●クラブ奉仕部会 捧 賢一会員

- ・雰囲気づくり、食事の良否、出席率の強要はいかに。・メーカーが前後14日になって出席しやすくなっている。
- ・万代クラブ(新潟)は夜の例会日である。
- ・会員相互の親睦のあり方。
- ・職業分類を調査、未充填分類を。150分類ほど出来る。

##### 《会員増強について》

- ・館林RC会長や幹部が常に会員増強を話している。
- ・女性会員を入会させることによる会員増強可能。
- ・会長の意気込みが会員増強と退会者を出さないことにつながる。
- ・1クラブが50人の会員を超えると会費の収入で運営がやりやすい。
- ・5名の会員の1名の増強運動。
- ・2人の新会員に1名の増強運動。
- ・2人の新会員プログラム

2人以上の新会員を入会させたロータリアンを表彰する。  
プロジェクトを作ればよい。

##### ・カルガリーへの挑戦

1995年7月1日から1996年1月1日の期間に最高の会員純増数を達成した地区とクラブをカルガリーで表彰する特別プログラム。

〈添付資料『特別メッセージ会員増強について』を参照〉

##### ●青少年奉仕委員会 中村和彦会員

###### 《ライラ》

1. ロータリーが青少年を尊重し、かつ青少年に関心を抱いていることを一層明らかにすること。
2. 選考した青少年指導者およびその素質のある人に実地訓練を体験させ、責任ある効果的な自発性に富む指導方法を身に付けるよう援助すること。

###### 《ローターアクト》

今年度は「夢を行動に、行動を夢に」というスローガンのもとロータリークラブの奉仕活動を通して青少年の健全育成を行なう。

そして、ライラならびローターアクトの会に出席して青少年の考え方をよく理解していただきたい。

三条RC	6月7日例会	卓話	丸山行彦会員
	6月14日例会	卓話	小林敬典会員
	6月21日例会	卓話	鈴木宗資会員
三条南RC	6月12日例会	クラブアッセンブリー	
	6月19日例会	クラブアッセンブリー	
	6月26日例会	会長・幹事慰労会	
三条北RC	6月13日例会	卓話	
	6月20日例会	卓話	
	6月27日例会	会長・幹事慰労会	

すよね。これからは国を林業の力で発展させたいが、今の林業は人手不足で、若い人が入ってくるような状況を目指したいと思っています。そのためには皆様のご理解とご協力が必要です。

【文責・会務部部長 〇〇〇】

「国を守るのは自衛隊ではない、それは森林である。だから林業には《心と力》を注ぎたい」ということをおっしゃいました。それ、員会員の中で、員会委員の代表として、「国を守るのは自衛隊ではない、それは森林である。だから林業には《心と力》を注ぎたい」ということをおっしゃいました。それ、員会委員の中で、員会委員の代表として、「国を守るのは自衛隊ではない、それは森林である。だから林業には《心と力》を注ぎたい」ということをおっしゃいました。

【文責・会務部部長 〇〇〇】

【地区別活動計画】

- クラブ別活動計画 第一年度
    - ・ 活動強化のため、各クラブの活動計画を、各地区の活動計画に、一層充実させる。
    - ・ 万代クラブ（活動）は各クラブの中心とする。
- |                  |           |            |        |
|------------------|-----------|------------|--------|
| ・ 会員相互の連絡のありさま   | 員会総行山火 部会 | 会期日 7月 9日  | 〇月 第 三 |
| ・ 職別分類別活動、本部会活動  | 員会南郡林小 部会 | 会期日 8月 9日  |        |
| 【会員増強について】       | 員会東宗木能 部会 | 会期日 12月 9日 |        |
| ・ 地区別に会員増強目標を設定  | 員会北郡山火 部会 | 会期日 12月 9日 | 〇月 第 三 |
| ・ 女性会員を増やすこと     | 員会南郡山火 部会 | 会期日 12月 9日 |        |
| ・ 会長の私生活が社会活動に貢献 | 員会北郡山火 部会 | 会期日 12月 9日 |        |